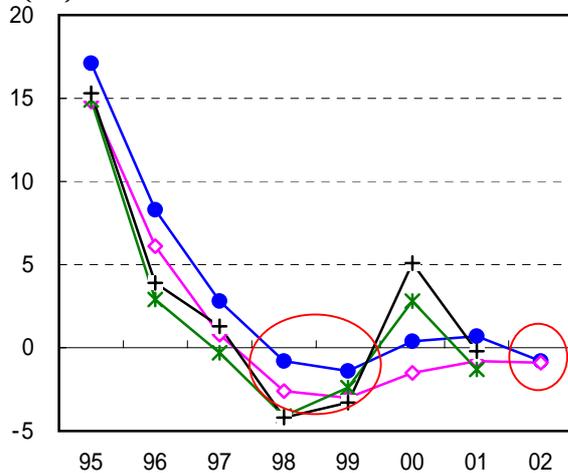


中国のデフレについて

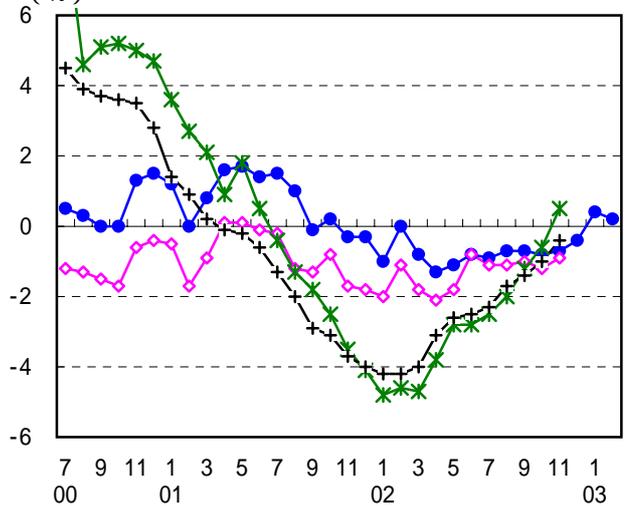
- 中国の物価指数の伸び率の推移をみると、98、99年および2002年にマイナスとなっており、これらの時期に中国がデフレであったことを示している。小売物価指数や原材料価格指数など財価格の低下が先導して消費者物価指数の伸び率がマイナスになったとみられる(図表1)。
- 最近では、2002年に入り原材料価格指数、工場出荷価格指数の伸び率のマイナス幅が縮小傾向に転じており、2003年に消費者物価指数の伸びがプラスに転じた(図表2)。
- デフレの原因は、総供給・総需要曲線のフレームワークから供給側要因と需要側要因に分けて考えることができる(図表3)。中国がデフレであった時期も、実質GDPは7-8%の成長率を維持したことから、デフレは主に供給側の要因(総供給曲線のシフト)によるとみられる(図表4)。
- 具体的な供給側の要因としては、98、99年は家電など工業製品について生産過剰体質へ転換したことが指摘されている。また、2001、2002年は外国企業との競争激化(WTO加盟をにらんだ間接的効果)やWTO加盟後は関税率の低下(直接的効果)が要因と考えられる。なお、2003年に入り燃料価格の上昇などによりデフレは一服した。

図表1 物価指数の伸び率(年次)

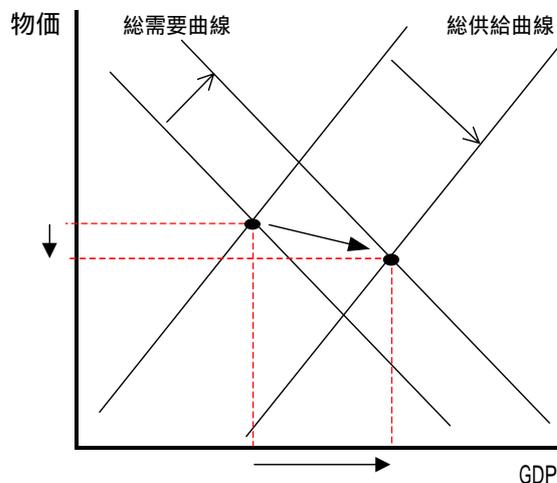


● 消費者物価指数
◇ 小売物価指数
* 原材料価格指数
+ 工場出荷価格指数

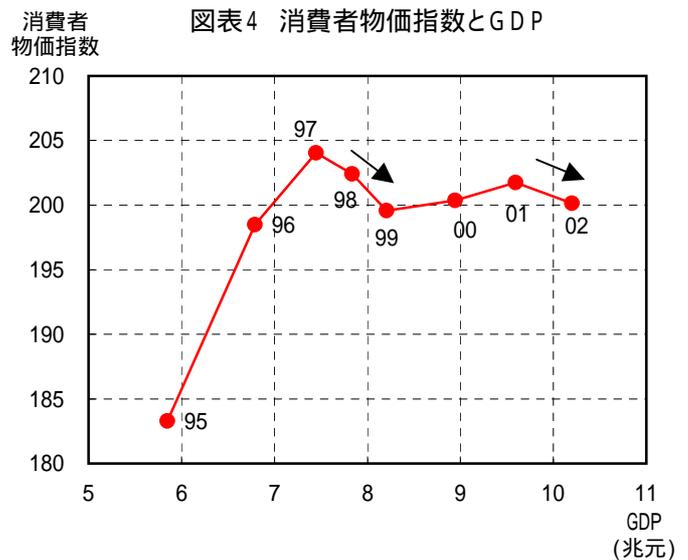
図表2 物価指数の伸び率(月次)



図表3 総需要・総供給曲線



図表4 消費者物価指数とGDP



(備考) 図表1、2、4は「中国統計年鑑」、「中国経済景気月報」等により作成。

[調査部(経済調査担当) 林 忠輝]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp